

平成22年度(2010年度)事業の概況

<経営環境>

21世紀となって10年が経過しました。急速に進む経済のグローバル化、IT革命など高度情報化の波は国家体制にも影響を与える時代となってきました。超大国アメリカに翳りが見え、EU圏では信用不安、中国など新興国の台頭、アフリカや中東諸国の民主化など世界の枠組みが大きな変化に直面しております。そして戦争、貧困、地球の温暖化や自然災害など人類の平和と繁栄への道は引き続き大きな課題であります。

日本はバブルの崩壊後20年、低迷・混迷の中にある時に、3.11「東日本大震災」が発生しました。津波や原発の大事故など、多数の人命や莫大な産業及び経済的な基盤を失いました。亡くなられた方々のご冥福と被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

震災後2ヶ月が経過しても、復興の道筋はまだ見えていません。「日本は必ず復興する、復興してみせる」との声は国民全ての願いであります。復興には長い年月と様々な困難が予想されますが、叡智を結集してこの難局を乗り越え、「日本の奇跡」(三度目の)を後世に伝えたい、そのためにわれわれも微力ながら取り組む覚悟であります。

MRAハウスの設置経営

本部建物は、2階並びに1階の一部を引き続き(財)日本国際交流センターに賃貸中である。

貸家事業については、ハウスAはインターコンチネンタルホテルとの契約が8月末に終了し、定期借家契約による入居者を募集中である。ハウスBについては、内装を中心に老朽化が進んだ屋根の一部などの改修工事を約370万円で実施し、7月から新しいテナントが入居した。なお、隣地の建設計画(旧井田邸・三菱地所のマンション計画)は経済情勢や居住者の立ち退きなどの事情により、工事の予定が大幅に遅れるとの説明があった、(当初予定は2009年秋より解体工事に着手)。

寄付事業・助成事業

EWS事業の寄附活動、助成事業(OCA、国際IC日本協会、SOA)、渋沢敬三記念基金など事業計画に沿って実施した。

イースト・ウエスト・セミナー

合計 2,969.6万円

以下の団体等に対して助成をおこなった。(講師・執筆者等敬称略)

1 アルカンシェール美術財団 理事長 原 俊夫
) 法人賛助会員

2 三極委員会(日米欧委員会) 委員長 小林 陽太郎
 賛助会員

3 日本国際交流センター 理事長 山本 正

) 賛助会員

) 三極委員会 ダブリン総会 5月7日 9日

アジア及び日本参加者 11名の参加費助成

) 日米議会関係者対話

新下田会議 (日本国際交流センター40周年記念事業)

2月22日 ホテルオークラ東京

“ 激動する国際社会と日米戦略的パートナーシップの再構築 ”

セッション : 「今日までの日米関係の再検討」

モデレーター : 山本正、(財)日本国際交流センター理事長

問題提起 : 田中均、(株)日本総研国際戦略研究所理事長

セッション : 「変化を続けるアジアにおける日米関係」

モデレーター : 西原正、(財)平和・安全保障研究所理事長

リマークス : 藤崎一郎、駐米特命全権大使

基調講演 : ジム・ウェッブ、民主党上院議員 (バージニア選出) ;

上院外交委員会東アジア・太平洋小委員会委員長

セッション : 「地球的課題における日米協力の推進」

モデレーター : バーネット・バロン、アジア財団筆頭副理事長

セッション : 「日米関係の課題 : 何を成すべきか ? 」

モデレーター及び総括 :

チャールス・モリソン、イースト・ウエスト・センター理事長

リマークス : 古川元久、衆議院議員 (民主党) ; 前内閣官房長官

ダイアナ・デゲット、民主党下院議員 (コロラド州選出) ;

下院院内筆頭副幹事

米国より6名の国会議員のほか、外交官、経済界、学者、法律家、マスコミ関係者など26名、日本側からは国会議員13名、外交官、経済界、学者、マスコミ、財団関係者など46名が参加した。

) 「日米中関係のマネージメントと協調の強化」出版

GETTING THE TRIANGLE STRAIGHT Managing China Japan US relations

“ 緊張化する日中関係、揺れる日米同盟 いま、その未来が問われている ”

日本語版「日米中トライアングル 3カ国協調への道」が岩波書店より10月に出版された。

) 日本の対外外交関係の総点検と能動的外交の再構築 (第4回麻布田中塾)

塾頭 田中 均 塾生 17名

第1回 外交体制のあり方

第2回 大きな外交戦略

第3回 外交のツール (安保・援助)

第4回 日米関係の進化

第5回 日中関係のあり方

第6回 朝鮮半島の構想

第7回 東アジア共同体構想

第8回 グローバルな統治体制

4 (特活)アジアコミュニティセンター21 代表理事 伊藤 道雄

) 財政基盤強化・拡充への助成

ウェブサイトの充実化

2010年7月末に日本語サイト(<http://www.acc21.org/>)、続いて2011年1月に日本語の要約版英文サイトを開設した。これによりイベント情報、研修参加者募集、「ASIA NOW」ページの開設などが実現した。

日比 NGO 協働推進事業の基本サイトの設計と公開

ACC21 サイト内に、日比 NGO 協働推進事業専用サイトを開設し、「日比 NGO 協働基金(仮称)」構想の具体化と財源開拓をサポートし、また「対フィリピン国別援助計画」に関する提言活動をネット上で行うことができるようにする。2011年2月、3月にかけて、システム設計、デザイン業者の選定と決定、制作スケジュールの最終化を行った。

改訂版 ACC21 パンフレットの普及と会員・寄付者の拡大活動

2009年度に本事業で改訂した団体パンフレット(計2,000部)を活用し、以下のイベント、セミナー活動、会員・寄付者訪問、案内発送を通じて、今年度中に約1,165部普及し、会員・寄付者の拡大活動につとめた。

イベントでの活動「幕張チャリティ・フリーマーケット」ほか
セミナー、シンポジウム、研修での活動

東京西南ロータリークラブ「カンボジア子ども支援事業」ほか

その他・日比経済委員会(12月)、在日フィリピン商工会議所など
講演会・学習会の開催

「日本とフィリピンの企業財団の役割を考える フィリピン財団協会ディレクターを迎えて」(2010年12月15日 (公財)公益法人協会、(公財)助成財団センター、(財)地球市民財団との共催、参加者約16名

ACC21の年次報告書(日・英)の発行

2010年3月で当センターは設立5周年を迎えたことから、当初計画していた年次報告書を「平和で公正なアジアをめざして ACC21 設立5周年記念誌」(20ページ、表紙除く)を発行することになった。2011年1~3月にかけて、編集者、デザイナーとの打ち合わせ、および主要原稿案の作成を行い、骨子を作成した2011年6月中旬完成予定。

) アジア NGO リーダー塾

事業名称「アジア NGO リーダー塾 - 21世紀のアジア社会をデザインし、
変革を起す NGO 起業家の発掘と支援」

塾生 9名 準塾生 3名

基礎講座9回(講師: 横田克己、松原明、吉岡達也、伊藤道雄
西川潤、甲斐田万智子、近田真知子、竹弘隆一
秋尾晃正、)

海外研修 オリエンテーション（講師：鈴木ダリン、鈴木真理）
9月4日～14日 フィリピン（マニラではNGOの本部とスラム
地区やマイクロファイナンス銀行等現場で意見交換、続いて
ネグロス島やパナイ島など10日間で12団体を訪問した。
国内研修（10月～12月）を実施。この間11月3日は特別セミナー、11月13
日、12月18日に研修報告会を実施した。
公開発表会（当初3月22日予定が大震災で2011年5月14日開催）
第1部 東日本大震災とボランティア活動：我々の歩み
ACT インド洋津波復興支援事業の紹介
第2部 成果発表会実施

5 (特活)ジャパンリターンプログラム 会長 松尾 新吾
2010年日本語サット・in 福岡・東京 「平和と勇気」
「活動報告・記録集」作成費助成

6 国際文化会館 理事長（塾長）明石 康
新渡戸国際塾第三期 塾生 15名（男性10名、女性5名）
講座11回開催（講師：明石康、平野健一郎、ジョセフ・ショールズ、渋沢雅英
小林三郎、リチャード・ダイク、江川雅子、大谷光真、鶴見俊輔
田中均、木山啓子、南条史生）
アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP)フェロー
との対話（第7回）
参加者 塾生11名 ALFPフェロー6名
ALFPフェロー
Ahn Byungok（韓国） 気候変動活動研究所(ICCA)代表
Amina Rasul Bernardo（フィリピン） マグバサキタ財団常務理事
Guo Zhiyuan（中国） 安徽大学教授・同大学応用法学研究所所長
Sasanka Perera（スリランカ） コロンボ大学社会学部長・教授
Kong Rithdee（タイ） バンコク・ポスト紙コラムニスト
Fouzia Saeed（パキスタン） NGOメルトガル所長
関 薫子（日本） 国際連合事務局人道問題調整室政策担当官
京都フィールドスタディ（第8回）
第1日目 講師 大谷光真 「仏教の特色と世界の平和」
第2日目 講師 鶴見俊輔 「鶴見版 日本現代史」

7 はこね学生音楽祭（第10回） 箱根町 町長 山口昇士
仙石原文化センター 9月5日 6日
「箱根駅伝」の音楽版として、課題曲「箱根八里」が歌われる全国的な学生音楽祭。
応募の中から第1次審査（テープ）で選考された12団体が、一日目の2次審査会、
二日目の最終審査会を経て箱根音楽大賞（最優秀賞、優秀賞など）が与えられた。

8 フレチャー北太平洋セミナー 代表 安部文司

北太平洋プログラム会議 12月18-19日 国際文化会館

参加者 ピーター・フィーバー（米国デューク大学教授・国際政治）
キャスリン・ライアン（米国ハーバード大学デザインスクール副部長）
ギル・ラッツ（米国ポートランド州立大学副学長）
ディビッド・ウェルチ（カナダウォータールー大学教授・国際政治）
ビクター・クズミンコフ（ロシア科学アカデミー極東研究所上級研究員）
安部文司（大阪教育大学教授）岡部知子（防衛研究所研究員）
阪田泰代（神田外国語大学準教授）佐藤真千子（静岡県立大学助教授）
木村昌人（渋沢栄一記念財団研究部長）

シンポジウム「北東アジアの安全保障と日米同盟」 日本財団ビル

司会 久保文明（東京大学法学部教授）

報告 ピーター・フィーバー（米国デューク大学教授・国際政治）

山口昇（防衛大学教授）

ビクター・クズミンコフ（ロシア科学アカデミー極東研究所上級研究員）

コメント：田所昌幸（慶応義塾大学法学部教授）

ディビッド・ウェルチ（カナダウォータールー大学教授・国際政治）

助成事業

合計 2,840 万円

§ （社）国際IC日本協会 会長 矢野 弘典

) 賛助会員

) IC研修生招聘プログラム

2010年5月-7月 ケニヤ、ベトナム、カンボジア、中国、韓国より各1名

1) 国際IC会議参加（5月15日-16日）

2) 小田原（小学校9校ほか）、福岡、北九州、広島、岐阜、京都、東京（関東）
などを訪問。学校訪問と交流、日本文化体験、観光など。

) 韓国からのIC専従者招聘プログラム（5月-8月）

オーストラリア研修生（10月-12月）

§ 一般財団OCA事業財団 代表理事 相馬 豊胤

) PRA DABOS 財団(総裁プ・ミンソ国王、副総裁プ・リクス・プ・ラーブ)

子供たちに40台の自転車を提供する事業に5万パーツを寄付

) 学生交流支援

埼玉大学タイ国訪問（訪問先チュラロンコン大学） 11月3日~9日

指導教官 遠藤教授 参加学生 11名

3日-7日 チュラロンコン大学で受講 ホームステイ

7日-9日 ファヒンに移動 シリンドン国際環境公園視察

) UWP との提携

前期公演 アメリカ、フィリピン、アメリカ、メキシコ

第 45 回同総会 7 月 2 9 日 アリゾナ
後期公演 アメリカ、台湾、アメリカ、メキシコ

) コモンビート提携・支援

UWP の日本版として連携を拡充してきたが、各地の公演で舞台に UWP と同じ感動を醸して人々の生き方に影響を与える活動は、NPO として収支を取っていることと併せて高く評価されている。

「定期公演」東京 7 月、大阪 10 月で 4500 名

OCA からの依頼公演として「箱根音楽祭」にゲスト出演

) 海外団体への支援

財)メーコック・ファーム(タイ国)へ 50 万円寄付

) 日・タイ合同 OCA 大会の開催 10 月 24 日 高輪プリンスホテル

OCA 活動 40 周年を記念して、タイチュラロンコン大学経済学部側から、会長夫妻以下 10 名が来日して、註日タイ大使館 4 名、在日留学生 7 名と日本から約 100 名が参加した。タイ大使館員によるタイ音楽、コモン・ビートの合唱、スライド・ショーなどが行われた。

§ (特活) 「Sing Out Asia」 理事長 波多野 三郎

) ジャカルタ日本祭りに参加 10 月 5 日

日本大使館とジャカルタ州政府後援で独立記念塔広場(モナス)で計画された日本祭りは、豪雨のため中止となり、残念ながら予定した公演も行われなかった。

ダルマプルサダ大学講堂における音楽公演: 10 月 2 日

日本代表: N' Jami。インドネシア代表: ララ、イメル、マルコ。フィリピン代表: ジュリアン、ニノ。タイ代表: アート・トムヤ。ラオス代表: ラング

ダルマプルサダ大学は元日本留学生たちが創った大学で、日本との結びつきも強く、日本語教育で有名な大学です。大学の講堂に 600 名が集まり、熱狂的な喝采を受けた。Sing Out Asia がテーマとする、友情・反戦・環境保護・差別の撤廃は、若者たちから圧倒的な支持をされています。10 月 3 日には学生との交流会で「クロスカルチャー・トレーニング」を行った。(合計約 50 名参加)

) クロスカルチャー・リーダーシップ訓練キャンプ 3 月 13 日 - 23 日

参加者は日本 12 名、マレーシア 2 名。インドネシア 1 名。シンガポール 1 名、タイ王国 5 名の合計 21 名がバンコクに集合した。予定したカンボジアのアンコールワット遺跡が、タイとカンボジアの国境紛争が再燃し、急遽、タイ王国のアユタヤ遺跡、スコタイ遺跡などの世界遺産を訪問した。最初の 1 日を使ったクロスカルチャー訓練は、今年も大きな効果を上げ、コミュニケーション技術を学び、己を知り、周りを観察し、異文化に対応する方法を身に付けた。

旅行の感想文をご参照ください。 <http://www.kitombo.com/index2.html>

) インドネシアの学生ミュージカル劇団 EN 塾支援

大学生 70 名をメンバーとする EN 塾は Sing Out Asia のジャカルタにおける受け入れ先であり、今後もいろいろなプロジェクトで提携していく予定です。

1) (特活) 女子教育奨励会(JKSK) 理事長 木全 ミツ

活動理念：「人口の半分は女性という人的資源（国家資産）を活用してこなかった勿体ない歴史に終止符を打ち、社会に存在する全ての資源（性別、非健常、国籍等）を、その違いを超えて活用することにより日本社会を健全且つノーマルなものにしていく。

主な活動：日本社会の“Work & Life Balance”の研究会（6回開催）、「JKSKサロン」の開催、「ウェブサイトの活動」、「アジア女子大学との連携プロジェクト（バンガデーイユ）」など。

2010年10月 認定NPO法人 取得

2) (特活) アチック研究センター 理事長 服部 勉

微小生物の動態に関する基礎的研究に対して助成した。

-) 細菌エコロジー遺伝子解析事業
北海道大学 茨木大学 東北大学 ほか
-) 細菌 - シカノ粒子結合体及び凝集体の実態解明事業
九州大学 岡山大学、佐賀大学、東北大学
-) 自然環境下における微生物動態追跡事業ほか
法政大学、AL ミュウゼアム
-) 普及・啓発事業・管理費その他
筑波大学、岡山大学他 5 研究機関

3) 渋沢敬三 50 年忌実行委員会 委員長 由井 常彦

-) 実行委員会による研究会の開催（4回）
国文学研究資料館訪問（5月22日）、民族学博物館訪問（7月3日）
-) 由井常彦（文京学院大学教授）
渋沢敬三の生涯とその周辺
-) 青木睦（国文学研究資料館 准教授）
日本実業史博物館のデータベース化
-) 武田晴人（東京大学大学院経済学研究科 教授）
実業家・財界人としての渋沢敬三の研究
-) 近藤雅樹（国立民族学博物館 教授）
渋沢敬三没後 50 周年記念特別展運営
-) 宮本記念財団 理事長 宮本瑞夫
アチック（渋沢敬三・宮本馨太郎等）フィルムのデジタル化
-) 小出いずみ（渋沢敬三記念財団）
渋沢敬三 年譜プロジェクト
-) 井上潤（渋沢敬三記念財団）
渋沢敬三 目録化プロジェクト
-) 木村昌人（渋沢敬三記念財団）

§ 外国訪問

10月 佐藤専務理事 インドネシア（ジャカルタ・日本祭）

新公益法人制度への対応

1 昨年12月から新制度への5年間の移行期間に入り、本年は特例財団法人として、従来通り文部科学省の監督下で活動中である。

財団設立後50数年が経過し、設立時の世界情勢や日本を取り巻く環境の変化とMRA運動そのものの変質など、「財団の目的・将来像」などについての理事会の議論を踏まえ、平成24年度中の一般財団への移行申請に向けて準備を進めることにしている。

以上